

笑いで地域おこし

いずし落語笑学校

憩い

輕妙な語り口に、場内には笑いが満ちる。出石永楽館



男女が入学素人14人が猛練習

「笑い」で地域おこしる。熱心なファン層も広相談しつつ、高座の練習理事長の渋谷勝彦さんをしよつと、豊岡市出石が、小学校や公民館でに精を出す。皆、真剣な(68)が、「魅力的な観光町でいずし落語笑学校」の出前寄席の依頼も増え表情で聴き、時折、厳し地にするためには、まず、い批評もとばすが、終わ地元住民が面白いと思え、

内の14〜68歳の男女14人が入学しており、出石永内の店舗2階に、仕事をわないと笑って打ち上人落語集団の結成を思いの年2回定期公演「わいつてくる。次の出前寄席だ。

ついた。アマチュア落語家として活躍する春歌亭丹馬こと田中久典さん(59)＝養父市八鹿町九鹿＝らを師匠に迎え、2011年4月に開校した。笑学校の囃人たちは好みな名前を名乗り、月2回、田中さんの指導の下、掛け合いやしぐさなどを練習する。高座を重ねるにつれ、それぞれ酒やバクチ、動物もの、色ものなど得意なネタができてき
たという。演目は上方落語だが、出石の言葉で語り、実在の町内の人物を登場させて話をアレンジするなどの工夫も凝ら

す。

そば店で、仕事の合間をぬって練習に励む「鳥肌亭ピリカ」こと渋谷朋矢さん―豊岡市出石町小人



丹波市氷上
雲竜柳の出
冬枯れ彩

冬枯れの季節、生け花などに新緑の色を添える「雲竜柳」の出荷が13日から始まる。丹波市水上町の葛野地区では、生産者が準備を進めており、温室の中は一足早く春の色に染まっている。

組 在 揮 約 温 が 積

雲竜柳はやナギ科の落葉樹で、くねくね曲がった形が特徴。稲作に向かない土地で盛んに育てられ、阪神間の市場に出荷される。水上町花卉園芸

もえぎ色の雲竜柳がいつぱ
準備が進む―丹波市氷上町

観光協会

北野天満神社
で牛」 福崎

福崎町2神社結ぶ道
「学問成就の道」とPR

福岡町観光協会は受験シーズンを前に、町内の二つの神社を結ぶ道を「学問成就の道」と名付けてPRしている。町出身の学者や学問の神様とゆかりが深く、「二つの神社を巡れば御利益も倍増するかもしれません」と呼び掛ける。

同町西田原の鈴ノ森神社と北野天満神社を結ぶ約300歩。鈴ノ森神社の氏子には民俗学者柳田国男やその兄で国文学者井上通泰ら知識人がいた。絵馬を販売しており、「合格祈願」に奉納する

航空券予約状況

迫真

テーマは「いかに本当っぽく見せるか」。渋谷勝彦校長（右）の表情は真剣そのもの―豊岡市出石町田結庄



魅力

本当は照れ屋。だが、高座に上がれば、よどみない語り口で観客を魅了する「Q亭はにい」こと岩下紗也さん＝豊岡市出石町田結庄。

人氣

昨年9月に開かれた「わいわい亭」はほぼ満員の盛況だった。出石永楽館



りとてちん杯」にも出場。「やればやるほど奥深さを感じ、のめり込んでしまった」と、プロの落語も研究するようになり、普段から車の中などで練習を繰り返している。

笑学校の校長も務

める「笑花亭大丈夫」の
渋谷さんは、「出演依頼
も増えており、うれしい
悲鳴。笑いを町に定着で
きるように頑張りたい」
と話している。次回のわ
いわい亭は3月14日午後
7時開演。木戸銭500
円。（長嶺麻子）

(長嶺麻子)



香住高校

きよう若潮寮

寮では県南部などの親元を離れた44人が生活している。也或との交流を

11日現在